

# 「ちばエコ農産物」栽培のために！ (品目別栽培カード 19)



## 落花生・マルチ栽培

千葉県農林水産部

### 1 栽培基準

落花生・マルチ栽培の栽培基準は、化学合成農薬の使用成分回数が2回以下、化学肥料使用量(窒素成分)が1.5kg/10a以下です。

また、堆肥施用の目安量は、牛ふんが500kg/10a、豚ふんが200kg/10a、鶏ふんが100kg/10a、土づくり的堆肥が600kg/10aとされています。(表1)



落花生のマルチ栽培

表1 「ちばエコ農産物」栽培基準における農薬の上限回数と窒素成分の上限量

(平成20年4月現在)

作型	上 限 量		堆肥施用の目安量(kg/10a)				収穫期
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり 的堆肥	
マルチ栽培	2	1.5	500	200	100	600	

## 2 栽培基準達成のポイントと考え方

### 1 病虫害防除等

「ちばエコ農産物」栽培基準における化学合成農薬の使用成分回数は、2回以下です。落花生栽培では、コガネムシ類に対する土壌処理剤は必須と考えられるため、残り1剤（1成分）をどのように使用するかがポイントになります。このため、圃場ごとに病虫害などの発生や被害状況を毎日観察し、その他に防除の必要な病虫害などを把握しておくことが重要です。

害虫対策では、基本技術である輪作体系を組むことによって、キタネコブセンチュウなどの害虫密度が低減できます。

鳥害対策では、キヒゲンR-2フロアブルによる忌避剤に代えて、防鳥テープの設置などによる物理的な方法で、化学合成農薬を削減できます。

雑草対策では、通路部の中耕除草及び株元の手取り除草による耕種的な方法で、化学合成農薬（除草剤）を削減できます。

褐斑病及び黒渋病の対策では、硫黄粉剤80（化学合成農薬に含めない農薬）の活用によって、化学合成農薬を削減できます。これらの病害が多発すると減収するため、発病初期から硫黄粉剤80を定期的に散布し（目安：約10日おきに3回）、被害を最小限に抑えることが重要です。特に、発病しやすい品種「ナカテユタカ」では注意が必要です。



褐斑病



黒渋病

表2 落花生・マルチ栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

処理時期	処理法	農薬名	10a当たり 使用量	対象病虫害など	備考
5月中下旬	播溝土壌混和または全面土壌混和	フォース粒剤	9 kg	コガネムシ類	播種時に使用
	全面土壌散布	ゴーゴーサン細粒剤F	5 kg	畑地一年生雑草	播種直後（雑草発生前）に使用
7月下旬	散布	硫黄粉剤80	3 kg	褐斑病、黒渋病	発生状況に応じて、処理時期や散布回数を変える
8月上旬	〃	〃	〃	〃	
8月中旬	〃	〃	〃	〃	

注) 印の薬剤は、化学合成農薬に含めない農薬



薬剤処理の違いによる褐斑病及び黒渋病の発生状況（「ナカテユタカ」収穫時）  
（左：トップジンM水和剤処理区、中央：硫黄粉剤80処理区、右：無処理区）



品種別の褐斑病及び黒渋病の発生状況  
（左：「ナカテユタカ」、中央：「おおまさり」、右：「千葉半立」）

## 2 施肥

落花生栽培の標準的な窒素施用量は3 kg/10a程度です。基肥には有機質原料を含む有機配合肥料などを用いることで、化学肥料の使用量を削減できます。

「千葉半立」は、窒素過多によって、地上部が過繁茂状態となり減収しやすくなるため、野菜栽培跡地などでは、残存窒素を考慮して施肥量を決めます。

未熟堆肥（有機物）は、コガネムシ類の多発生を招くため、施用を避けます。

表3 落花生・マルチ栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	稲わら堆肥				500			
基肥	やさいじょうずT (くみあい有機ペレット 626号)	6(2)	12	6	50	3(1.0)	6	3
	苦土重焼燐		35		69		24	
	硫酸加里			50	18			9
	苦土石灰				60			
総施用量						3(1.0)	30	12

注) ( )内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量



地干し直後の落花生（収穫期）

この「品目別栽培カード」に記載した農薬使用は、平成20年度現地実証試験時点のもので、実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

著 作 千葉県農林水産部担い手支援課  
千葉県農林総合研究センター  
編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課  
発行年月日 平成21年3月  
内容についての問い合わせ先  
千葉県農林総合研究センターTEL . 043 (444) 0676  
※令和元年6月変更